

第31回
北九州大腿骨近位部骨折
地域連携パス協議会

2021年6月24日

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局
産業医科大学 リハビリテーション部
村上 武史

大腿骨近位部骨折地域連携パス 集計結果

全受理データ

(2011年8月～2021年4月20日)

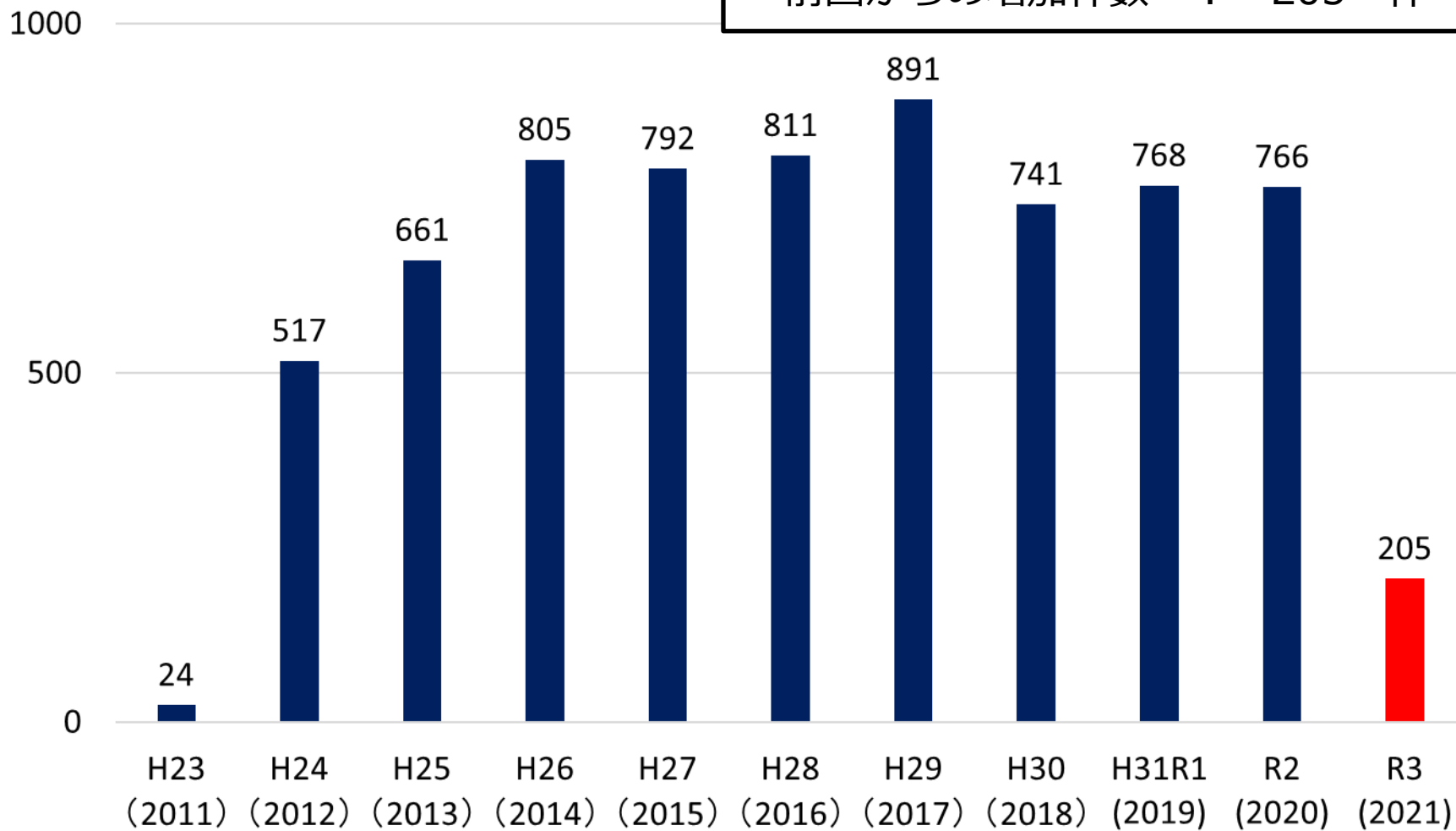
地域連携パスの利用状況

2021.1.1～2021.4.20までの約4.5カ月間

- 急性期医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**97件**
 - 合計6981件(受理4784件＋未送信2197件)
- 回復期等連携医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**174件**
 - 合計6981件(受理5617件＋未送信1364件)
- 急性期医療機関と回復期等連携医療機関の両施設の利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**66件**
 - 合計**3421件**

年別の地域連携パスの利用状況

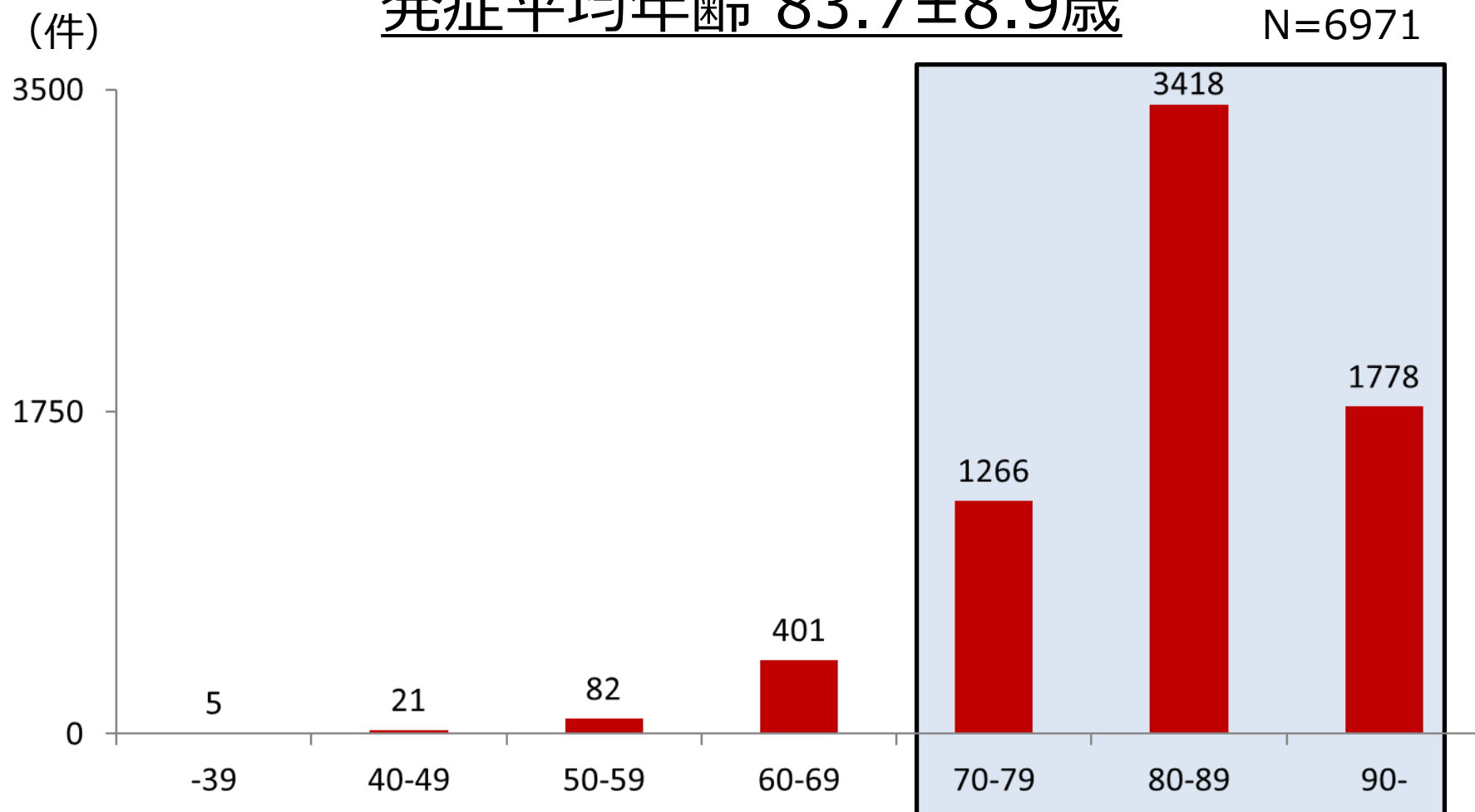
前回からの増加件数 : 205 件



年代別利用状況

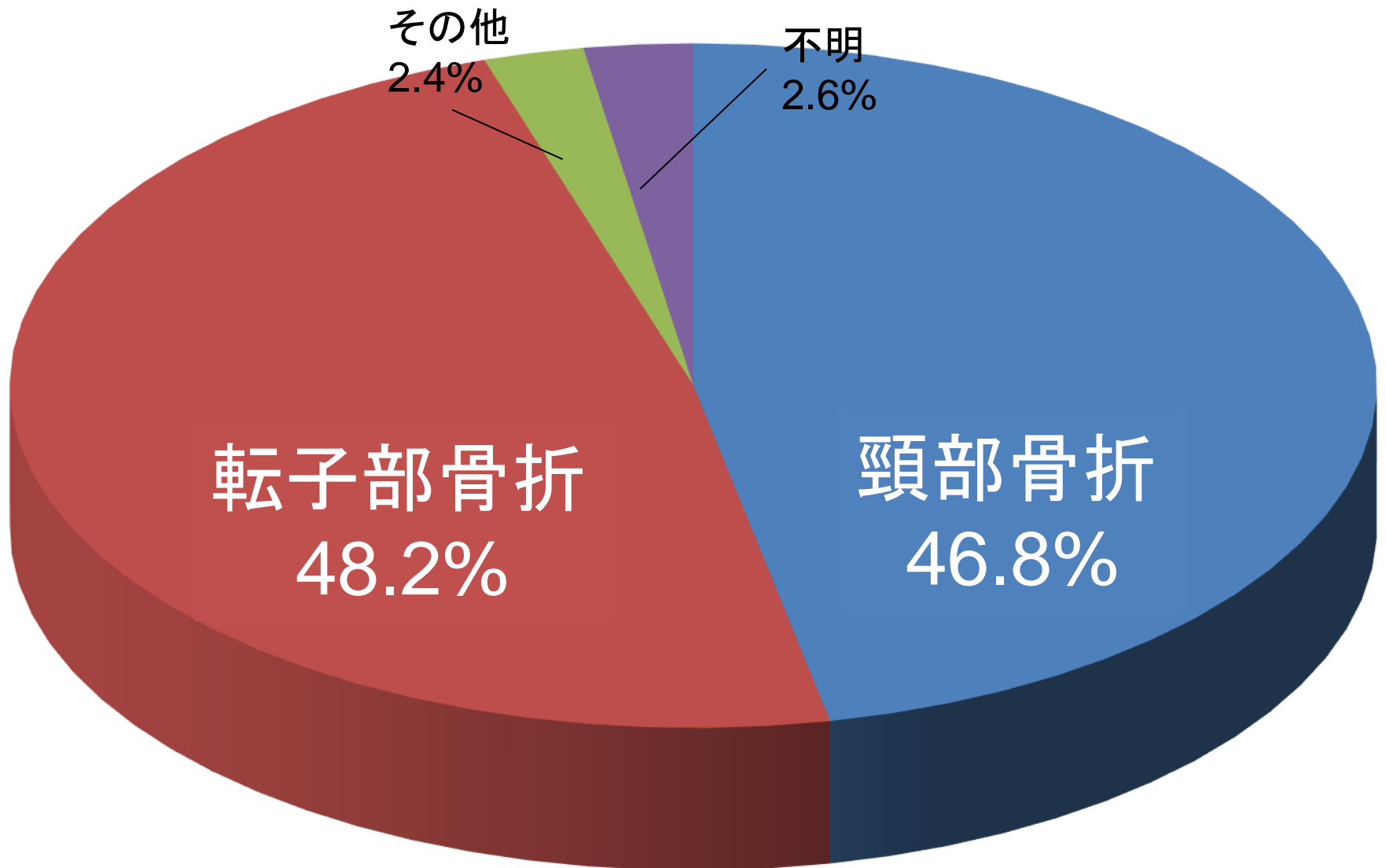
発症平均年齢 83.7±8.9歳

N=6971

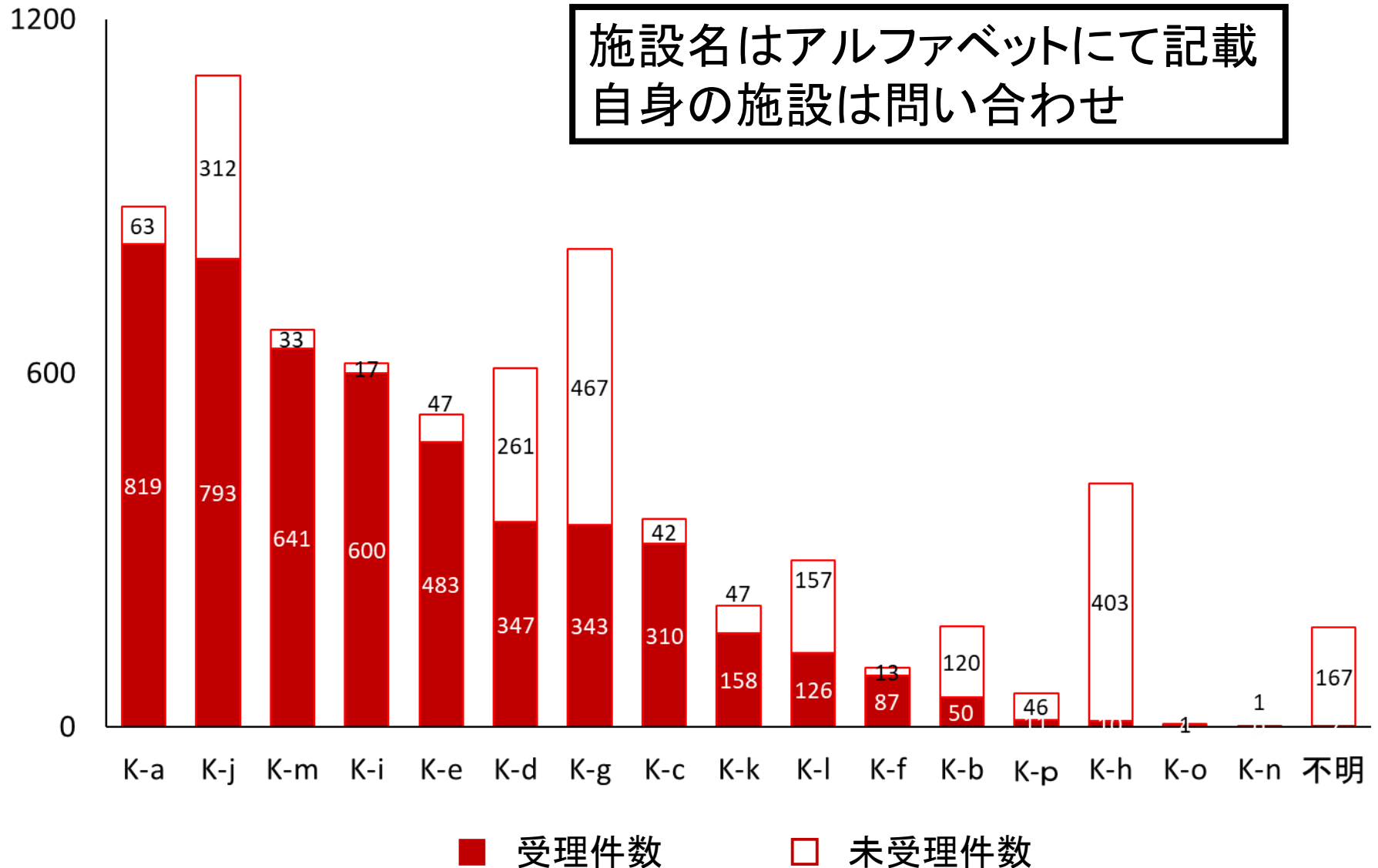


骨折型別発症割合

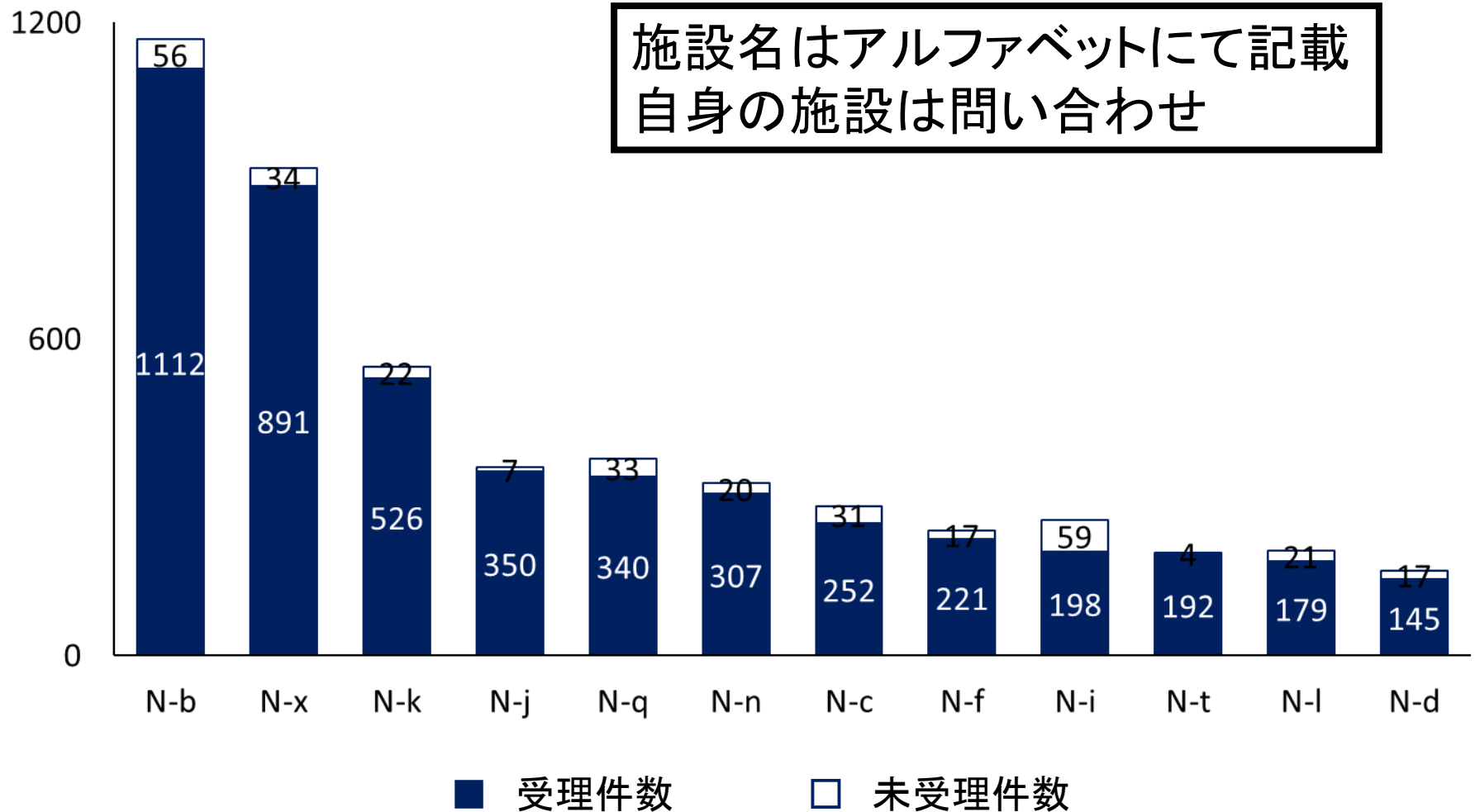
N=6981



急性期医療機関



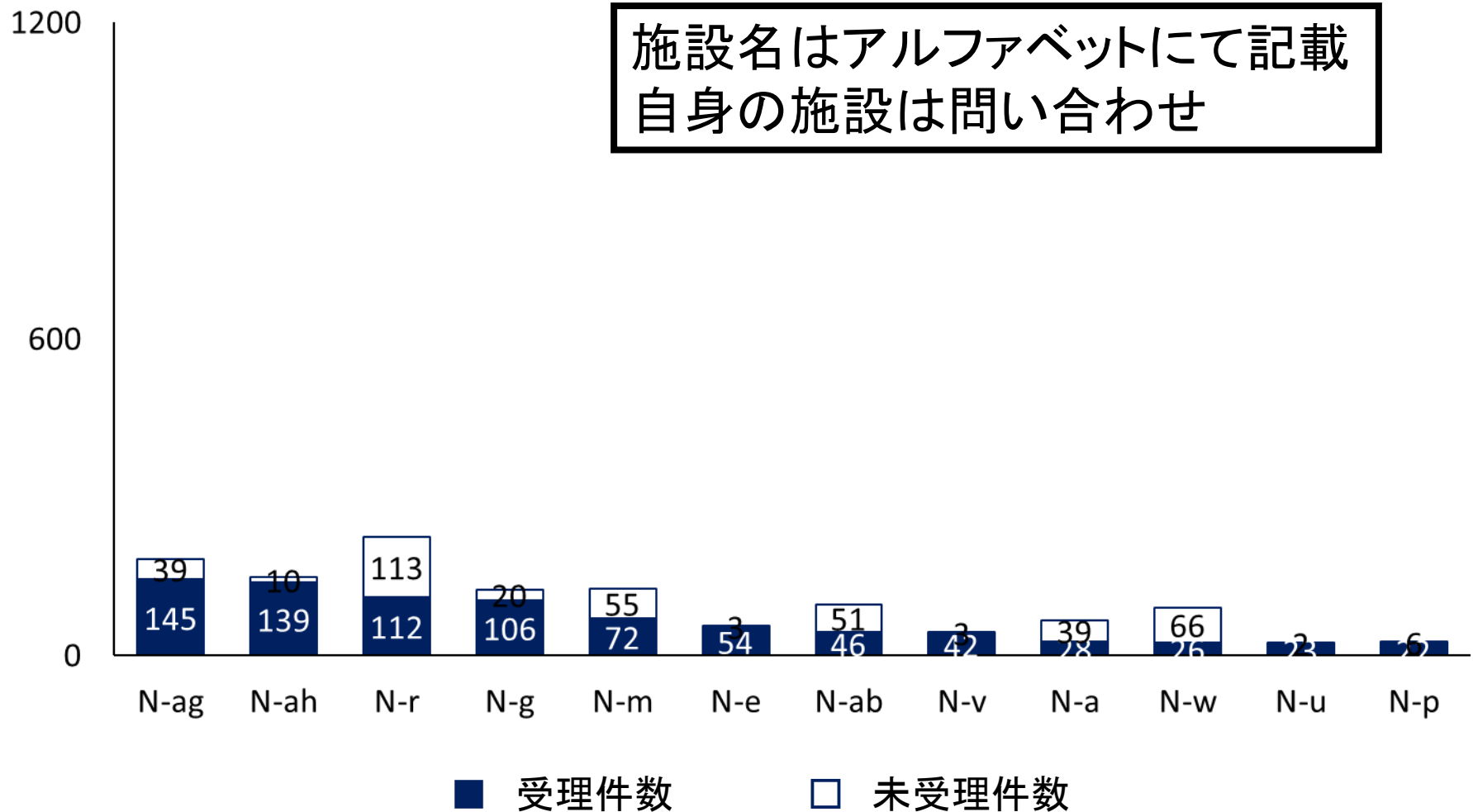
回復期等連携医療機関①



* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

回復期等連携医療機関②



* 現在入院中の可能性があるため、受理件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
- 2. 大腿骨近位部骨折地域連携パスの変遷**
3. その他

はじめに

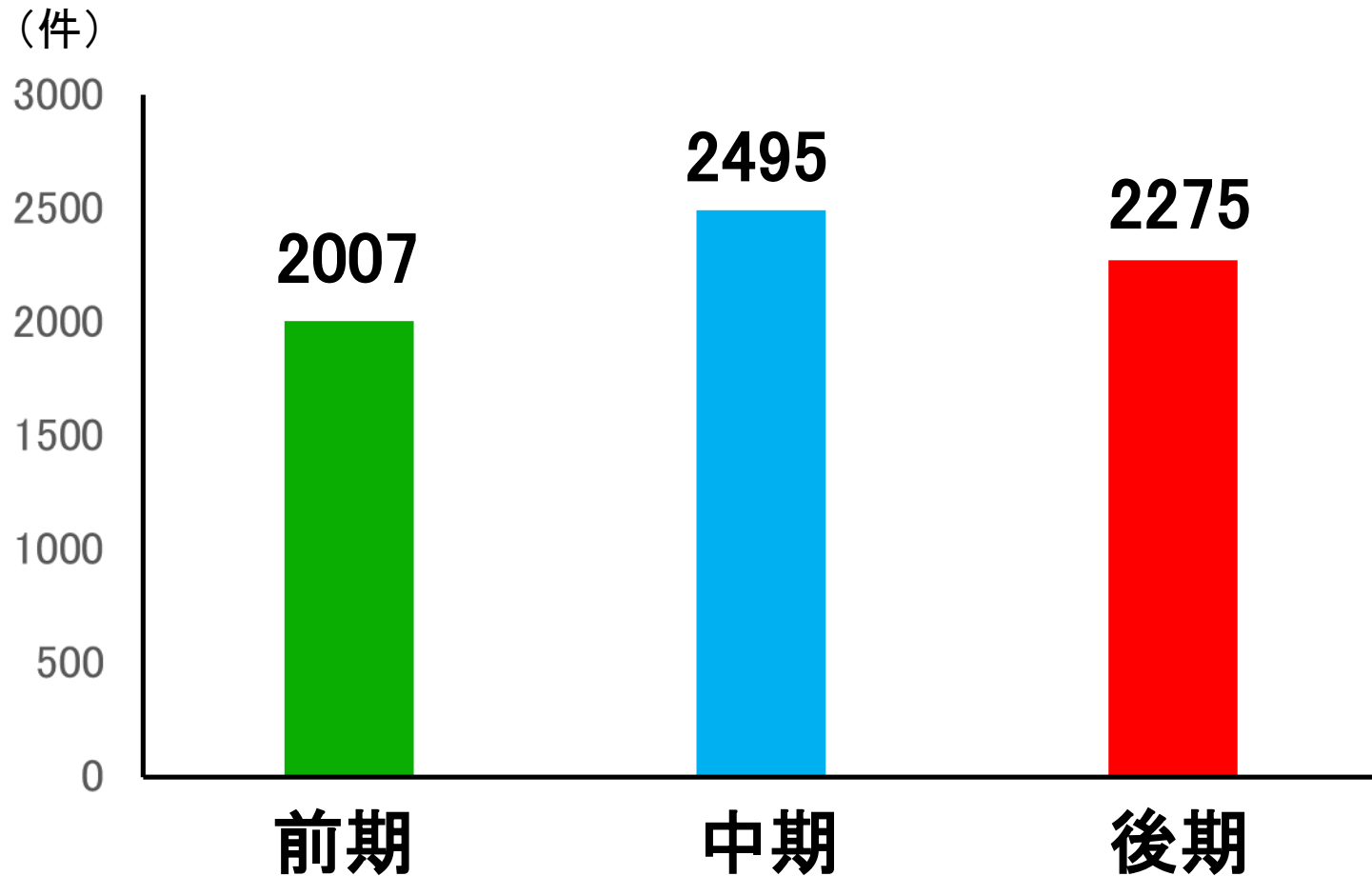
大腿骨近位部骨折地域連携パス北九州
標準モデルは2011年8月から導入され、約10年
が経過し、10年間にける変化について検討した

方法

2011年から2021年3月までに大腿骨近位部骨折地域連携パスデータをもとに、前期、中期、後期の3群に分け、患者特性や入院期間、転帰等を検討した。

前期	2011年8月～2014年12月
中期	2015年1月～2017年12月
後期	2018年1月～2020年12月

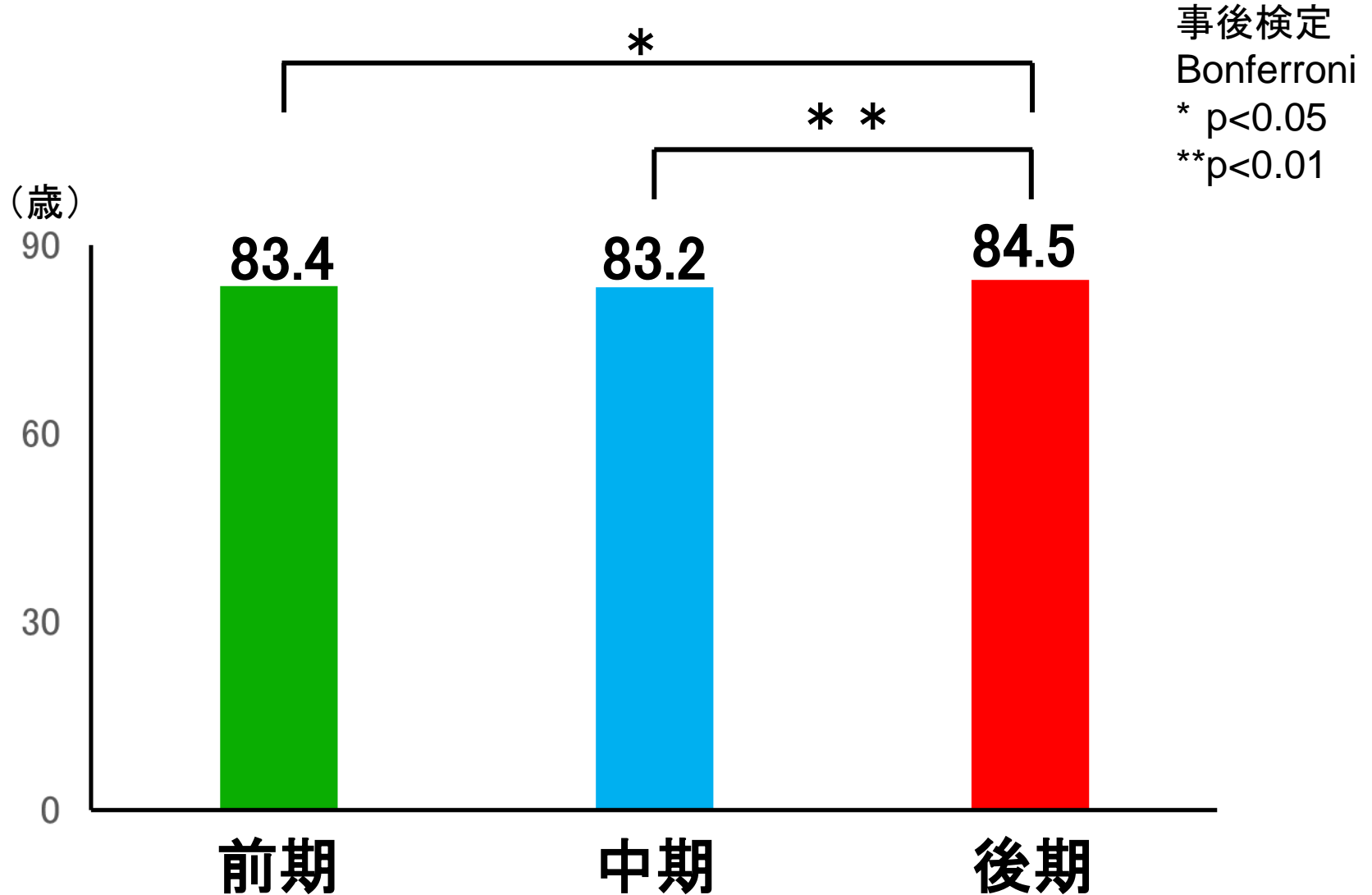
パスの利用状況



解析対象

前期 1254件、中期 1098件、後期 672件

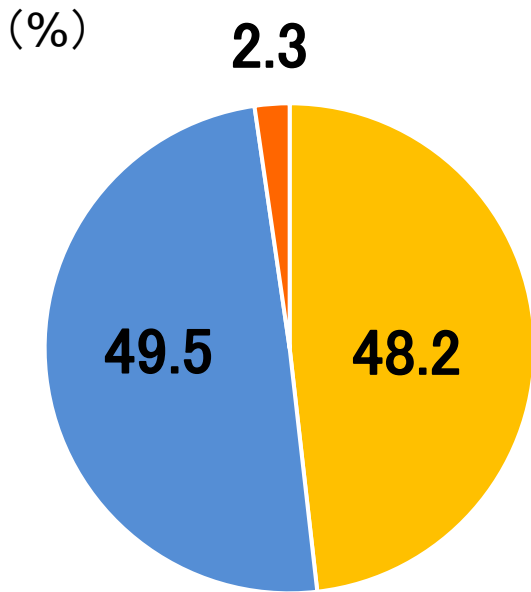
年齢



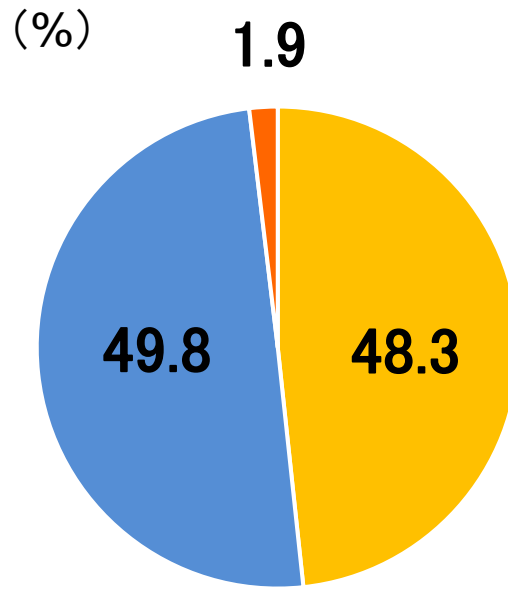
後期では、約1歳の高齢化

骨折型の割合

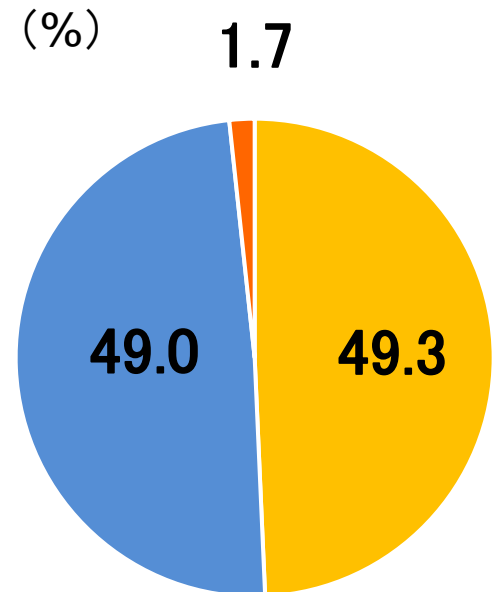
- 頸部骨折
- 転子部骨折
- その他



前期



中期



後期

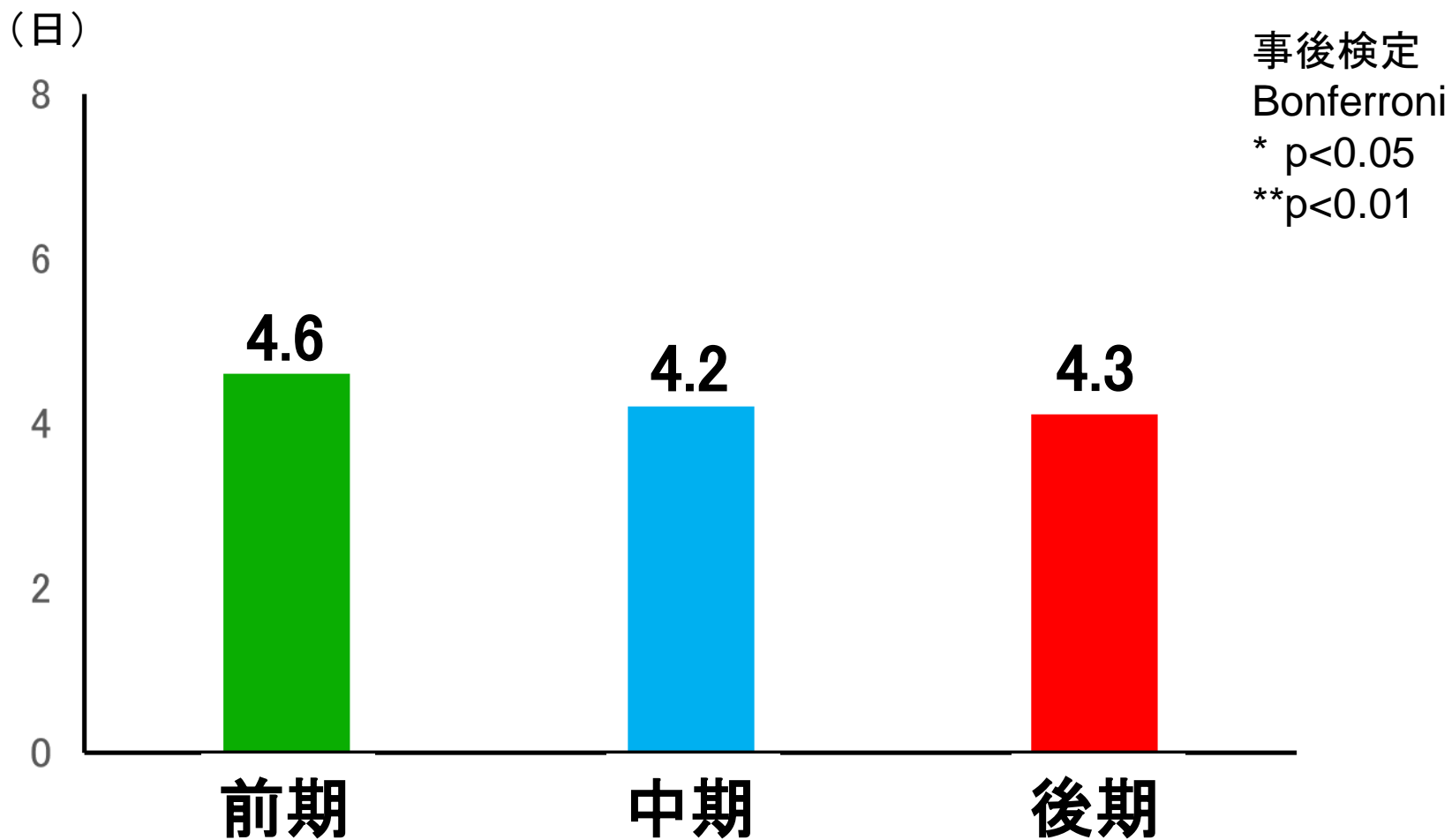
各期において大きな変化はなかった

χ²乗検定

* p<0.05

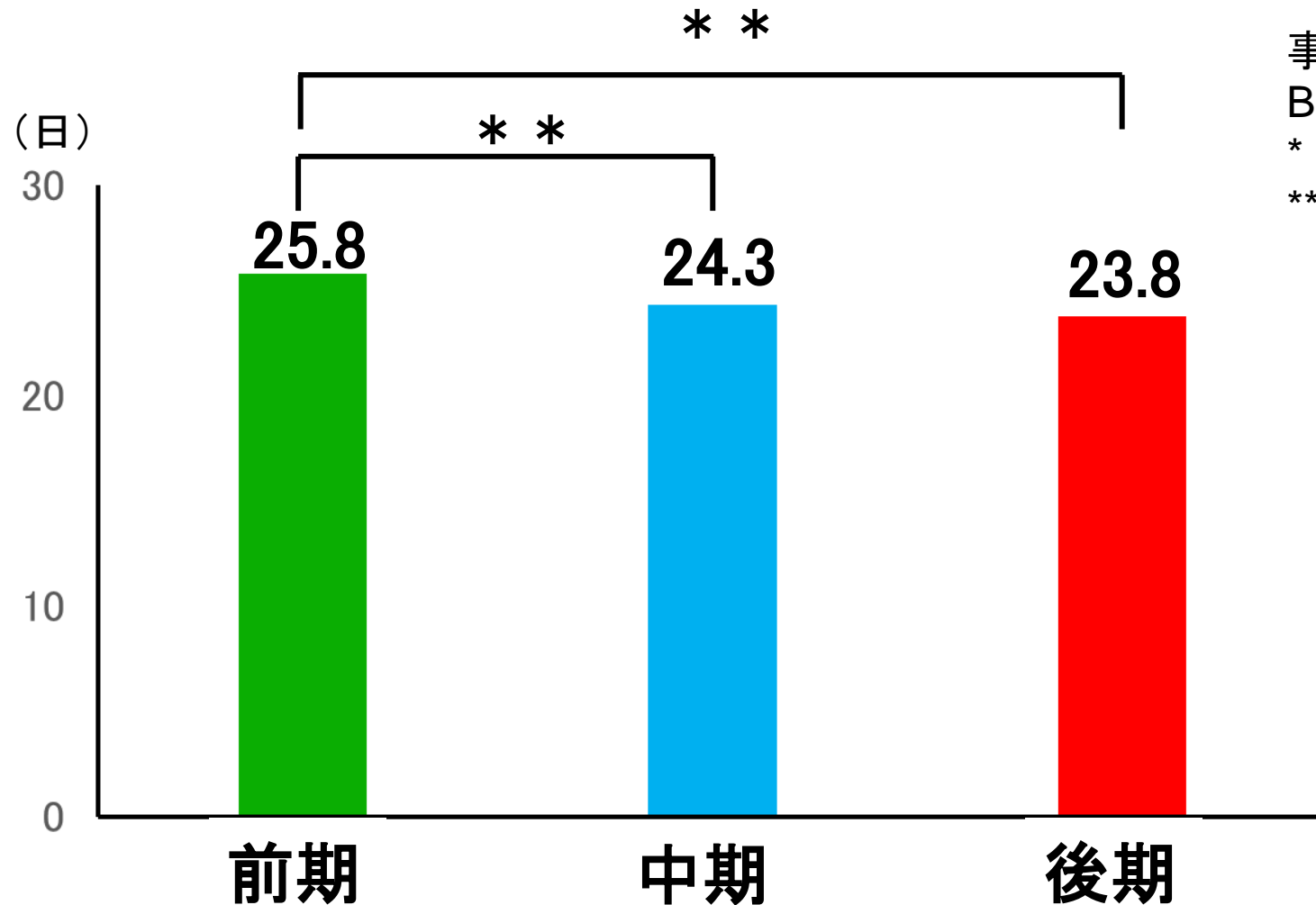
**p<0.01

手術待機日数



各期において大きな変化はなかった

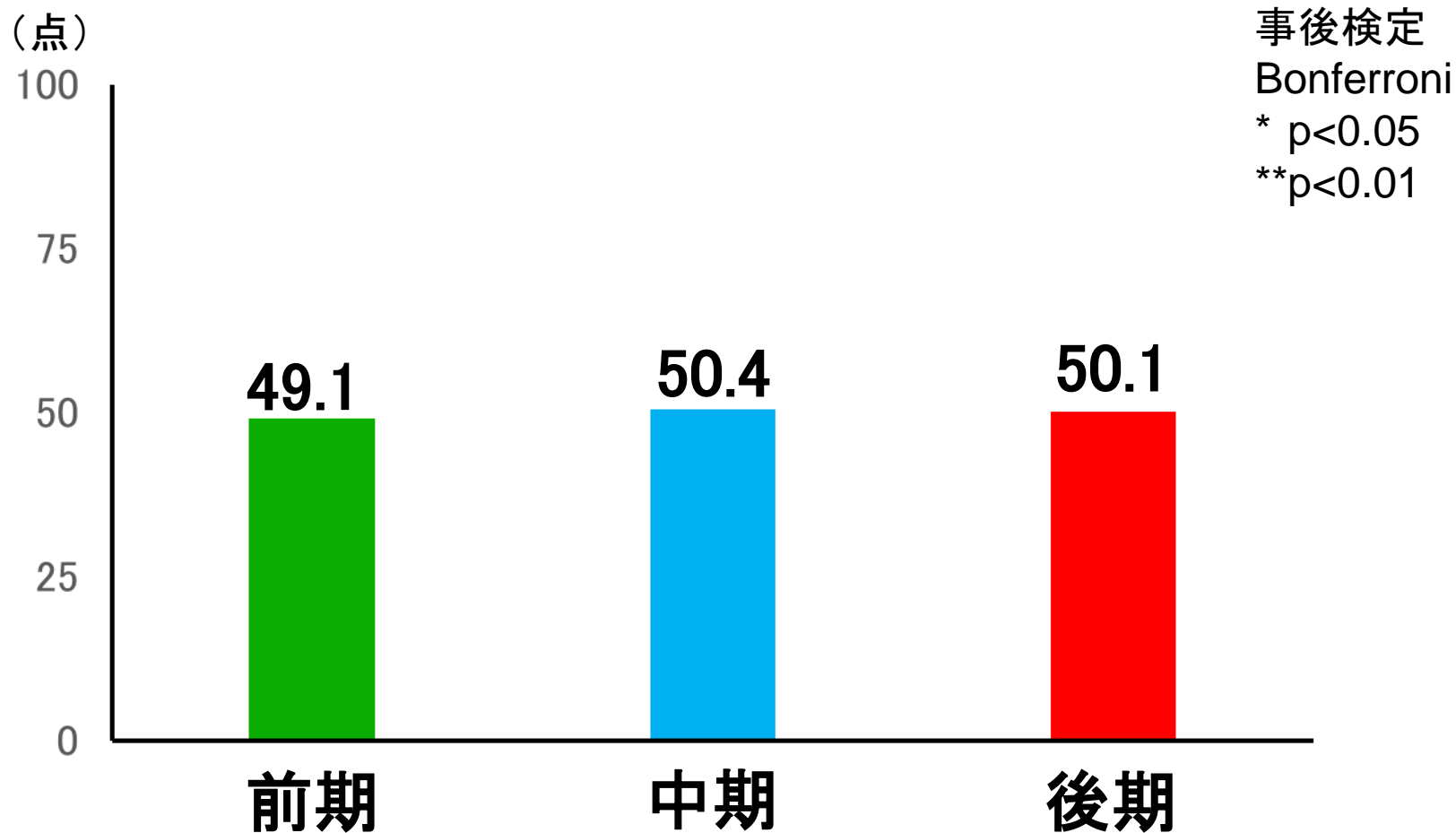
急性期病院の在院日数



事後検定
Bonferroni
* $p < 0.05$
** $p < 0.01$

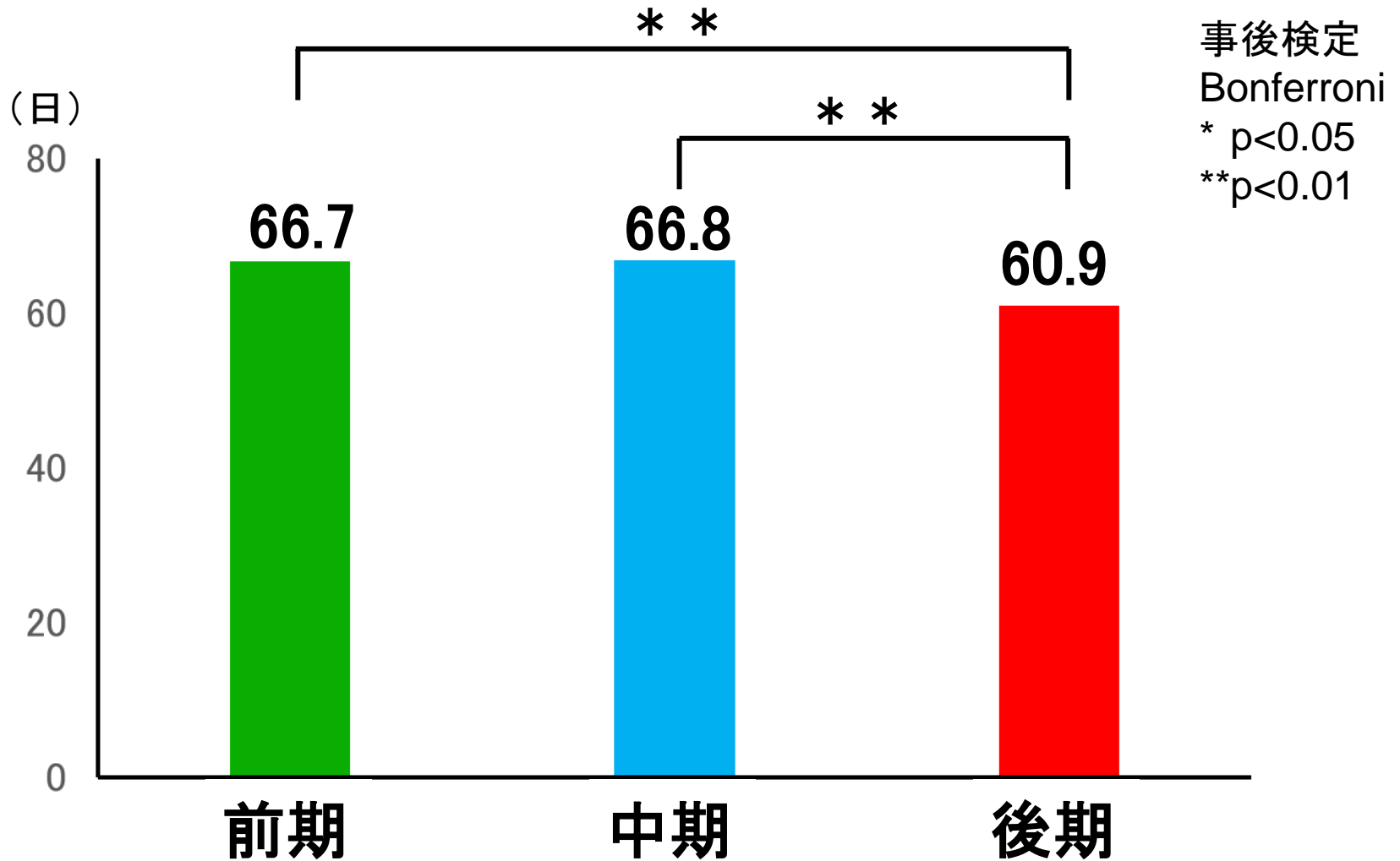
前期から後期にかけて、約2日の在院日数の短縮

急性期病院退院時BI



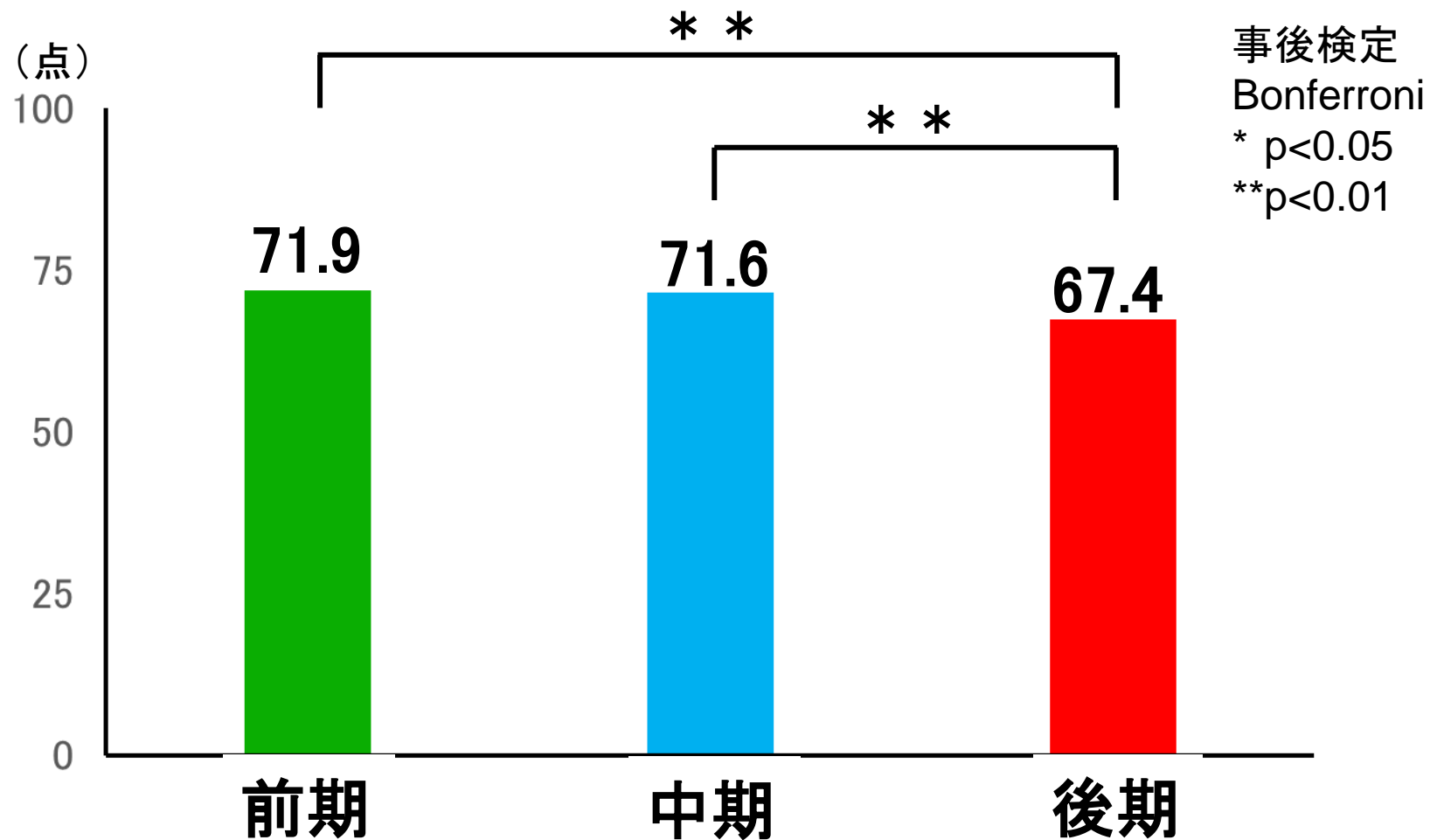
各期で急性期の退院時BIに変化はなかった

回復期病院の在院日数



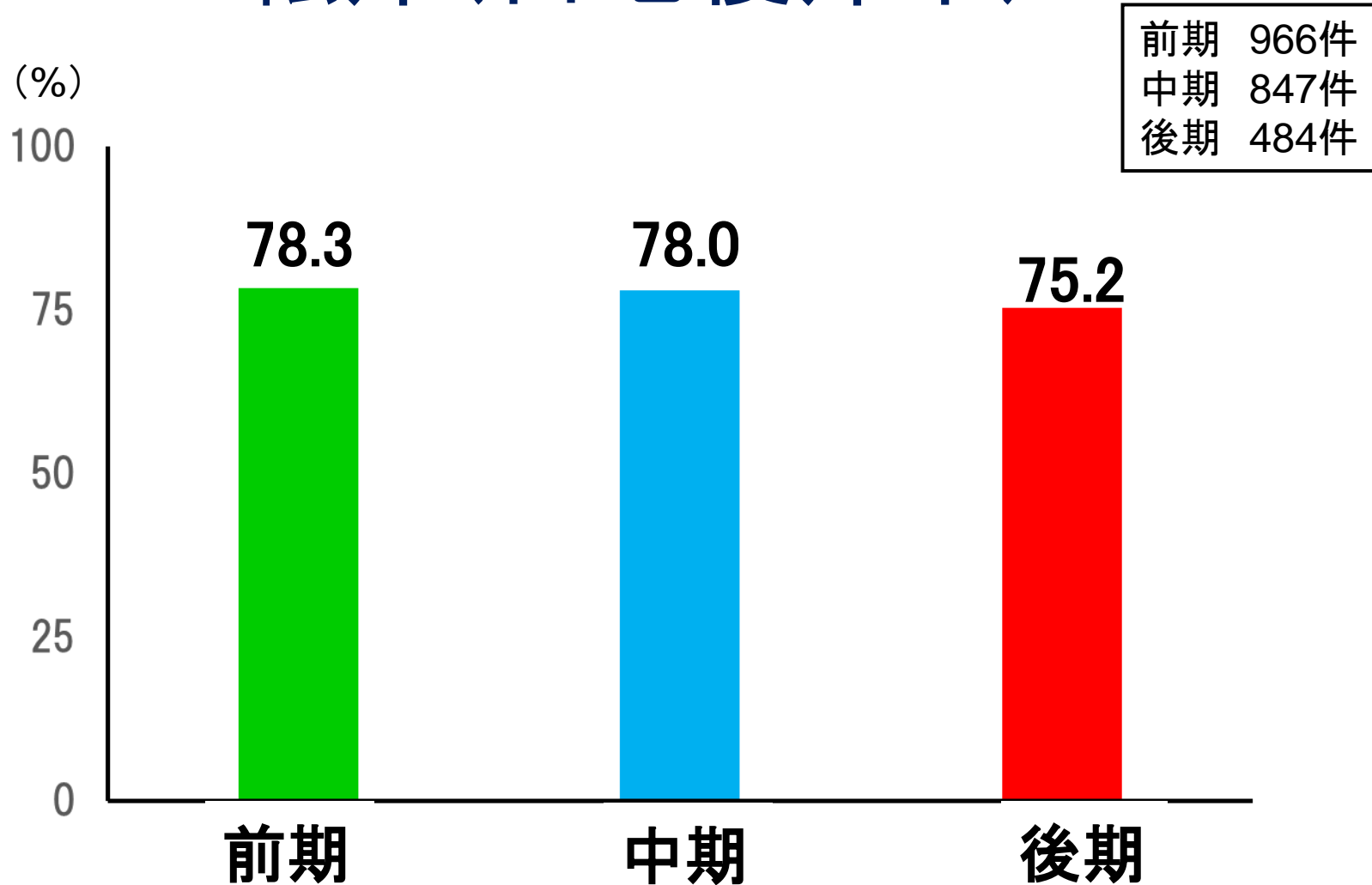
前期・中期に比べ、後期で約6日の日数の短縮

回復期病院退院時BI



後期では、退院時BIの低下を認めた

転帰（自宅復帰率）



退院時BIによる影響か後期では自宅復帰率が低下

まとめ

大腿骨地域連携パス北九州標準モデルの
データより北九州における変遷として

発症年齢は高齢化

急性期・回復期の在院日数は短縮

回復期退院時のBIは転帰による影響か